

---

# 終わった世界に雪が降る (CLANNAD)

如月奏

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

終わつた世界に雪が降る（CLANNAD）

### 【コード】

N8989Z

### 【作者名】

如月奏

### 【あらすじ】

きみは辛くなかったの？ 初めて降る雪を見ながら、ぼくはふと思った。

初めての雪が降った。丘の下面に広がる静寂の原野が、少しづつ白く染まっていくのを見ると、カレンダーも時計もない、幻想のような不気味な世界にも、季節の流れはあるのだということを実感させる。ガラクタでできた体のぼくには、その冷たさを感じる事ができないけれども、ぼくのすぐそばで体を震わせている、この世界に残されたたった一人の少女を見ると、今日は寒いのだということがすぐに分かった。

「寒くないの？」

ぼくは尋ねた。すると、きみはにっこりと微笑んで、雪よりも白い手を差し出して、ぼくの手を掴む。ぼくの手は、確かなきみの存在を感じる。

「大丈夫。確かに寒いけれど、雪は綺麗から、嫌いじゃないの」

「本当に？」

ぼくは頭のネジを回しながら、首を傾げた。すると、きみは空を見上げる。ぼくが初めて見た、透き通るような青空とは違う、不気味で暗い。いつかあの空の向こうを指すんだと決めたのに……あの空の向こうにある世界で幸せになろうと決めたのに……ぼくは何もできなかった。

「……」

きみは、小さなてのひらに舞い降りた雪のかけらを見つめながら、悲しげに笑う。ぼくはいたたまれない気持ちになって、思わずきみのそばに歩み寄った。

「どうしたの？」

「やっぱり抜け出そう。作るんだよ。ここから抜け出すための……」  
でも、果たして作ることができるのだろうか。今まで頑張ってたガラクタを集めて、丁寧に組み立てたのに、一寸も動くことがなかった飛行機。望みは薄いような気がする。

そう考えていると、きみはぼくの方を向いて言った。

「いいんだよ。抜け出さなくて」

「どうして？ きみは辛くないの？ こんな……暗くて悲しい世界に……居続けることは……すごく辛いことだよ」

すると、きみはぼくの前に屈み込んだ。そして、ぼくをじっと見つめ続けた。しばらく、何も言わずに見つめ続けたんだ。

「わたしにはどうにもできないこと。この世界のきみにもどうにもできないこと。だから、仕方のないことなんだよ」

きみは丘の下に見える飛行機に目を移した。

「でも、きみがそばに居てくれたから、辛くはなかった」

「ぼくは何もできなかった……」

あの飛行機は、ぼくの無力さの証明だった。

「そんなこと言わないでほしい。だって、わたしは……」

きみは何かを言おうとしていたけれど、すぐに口の動きを止めた。そして、ぼくから顔を逸らして、すくっと立ち上がった。

「丘の下までかけっこしよう。ほら」

きみはぼくの手を引いて、駆け出した。こんなぼくと一緒にいてよかったと言ってもらえるのなら、ぼくはきみを救いたい。でも、どうすればきみを救うことができるんだろう。ぼくには何も分からなかった。

終わった世界に雪が降る。ぼくたちの作った飛行機は、少しずつ白い布で覆い隠されていく。少しずつ、少しずつ……。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8989z/>

---

終わった世界に雪が降る（CLANNAD）

2011年12月28日06時49分発行